

「平成18年7月豪雨」に対する緊急対策を実施します。

「平成18年7月豪雨」では、斐伊川本川の下流部において水位が著しく上昇し、灘分地点において計画高水位を67cm上回りました。この要因の一つとして、河川内に繁茂しているヤナギ等の樹木や、上流から流れてきた土砂が堆積し、洪水の流れを阻害した可能性があります。

国土交通省出雲河川事務所では、毎年計画的に河川内の樹木伐採や堆積土砂の掘削を行っていますが、この度の出水を受け緊急的に8月下旬より次のことを実施します。

- ・平成18年度に実施する河川内樹木の伐採面積は、例年の2倍以上となる約7万 m^2 (左岸側約1.25km、右岸側約1km)を実施する。
- ・平成18年度に実施する堆積土砂掘削は、例年の2倍にあたる約8万 m^3 を掘削する。(河川法に基づく許可掘削量を含めると平成18年度の掘削量は10万5千 m^3 となり例年の約2.6倍となります。)

なお、伐採樹木はチップ化し木質資源として、また、掘削土砂は宍道湖で行う水環境整備事業の植生基盤材料などに有効活用し、リサイクル及びコスト縮減に努めます。

同時発表記者クラブ名

島根県政記者クラブ・出雲市政記者クラブ

お問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

副所長(技術) 土江 清司
河川管理課長 中井 喜美男

TEL 0853-21-1850

流せる量を増やして河川のはんらんを防ぎます！

平成18年7月豪雨では斐伊川下流部の水位が著しく上昇しました。このため出雲河川事務所では、斐伊川下流部における平成18年度のヤナギ等の樹木の伐採や河口部の土砂掘削を、例年より大幅に実施し、斐伊川下流部の流下能力を向上させます。

例年の実施量	H18年度実施量
樹木の伐採 年間約 3万m ²	約 7万m ²
土砂の掘削 年間約 4万m ³	約 8万m ³
	(許可掘削を含めた実施量10万5千m ³)



H18年度 河口浚渫箇所 (許可掘削箇所) 約2万5千m³

H18年度 河床掘削箇所 約6万m³

H18年度 樹木伐採箇所 左岸側 約5万m² L=約1.25km

H18年度 寄り州撤去箇所 約2万m³

H18年度 樹木伐採箇所 右岸側 約2万m² L=約1km

